

バンディングかわら版（第4号）

鳥類標識調査（バンディング）で得られた成果をお知らせするニュースレター

鳥類標識調査（バンディング）とは？

番号入りの足環（標識）を野鳥につけて放鳥し、その後、その鳥が再発見（回収）されることで、移動や寿命について調べられる調査方法です。

世界各国で行われており、最も歴史の長い自然環境調査の一つです。日本では1924年に開始され、現在は環境省が山階鳥類研究所に委託し、多数のボランティア鳥類標識調査員（バンダー）が参加して調査が行われています。



野鳥に装着する足環。これを装着することを「**標識**」する、その個体が再発見されることを「**回収**」と呼びます。

注）この調査は、野生の鳥を捕獲するための法的な許可（鳥獣捕獲許可）を受け、実施されています。

標識調査からどんなことがわかるの？

農業被害の原因となりうるヒヨドリの移動範囲は？

ヒヨドリ（右）は日本全国に生息する身近な鳥です。留鳥とされていますが渡りを行う個体も多く、移動の実態はよくわかっていません。さらに地域によっては農業被害を引き起こすことが知られています。被害対策には、被害を起こす個体の移動範囲を把握する必要があります。



写真：森本元

標識調査のデータには、狩猟や有害鳥獣駆除による回収記録があります。これらの個体は「**農業被害を起こした可能性のある個体**」と仮定できます。これらの個体はどこから来たのでしょうか？

狩猟や有害鳥獣駆除された個体の多くは、「**回収県と同一県内**」または「**回収県の近隣県**」で放鳥されました。

注） n=48（1961年～2018年のデータのうち、右表説明の条件に該当する個体数）。

標識県	回収県	個体数
新潟	和歌山	2
静岡	静岡	3
愛知	愛知	5
愛知	和歌山	4
大阪	和歌山	5
静岡	静岡	3
福岡	福岡	2

農業被害を起こす可能性のある個体は、比較的近距离（同一県内～近隣県）に生息する傾向がありそうです。

「放鳥地の県（標識県）」と「再発見された県（回収県）」の組み合わせを示した。5km以上移動した個体のうち、狩猟または有害鳥獣駆除によって回収された個体に限定。2個体以上記録のある例を示した。

近隣地域で連携して防鳥対策することが有効かもしれません。

より詳しく知りたい方は令和2年度調査報告書 p.30-31の本調査結果をご覧ください。
(<https://www.biodic.go.jp/banding/report.html>)

鳥類標識調査にご協力ください！バンダーになりたい方、足環のついた鳥を発見した方、いずれも右記までご連絡ください。

宛先：〒270-1145 千葉県我孫子市高野山115
山階鳥類研究所 鳥類標識センター
電話 04-7182-1107 FAX 04-7182-4342
E-mail: BMRC@yamashina.or.jp

どんな鳥が何羽くらい再発見（回収）されているの？

足環をつけて放たれた鳥が、2019年に別の場所で回収された例数は88種1,254羽（前年より11例減）でした。このうち国内で足環をつけ国内で再発見された例数の上位3種は、ユリカモメ（281羽）オオジュリン（216羽）オナガガモ（97羽）です。

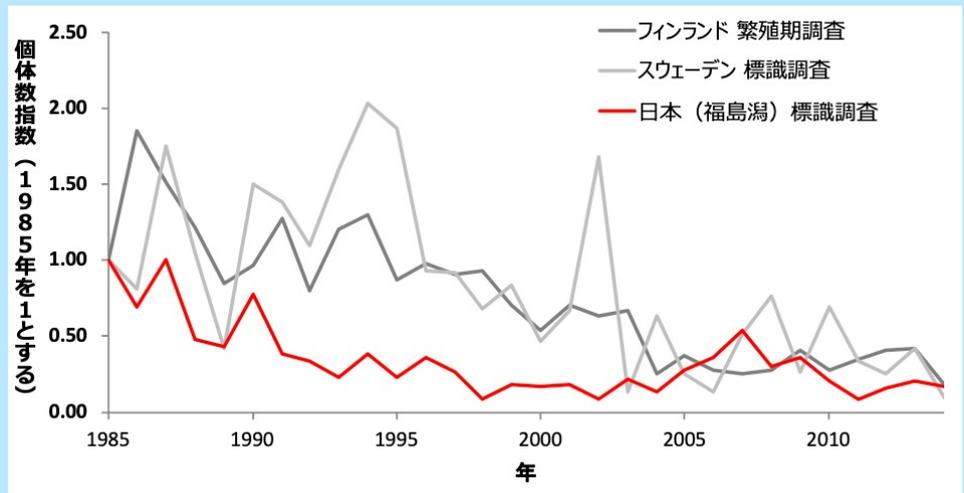
1961年から2019年までの累計例数は、262種、約4万羽（40,706羽）となりました。



標識調査からどんなことがわかるの？

カシラダカの顕著な減少傾向が把握され、 レッドリストカテゴリーの見直しにつながりました

繁殖地である北欧の生息調査と、中継地・越冬地である東アジアの標識調査の結果を組み合わせたところ、カシラダカの個体数はこの30年間で75～87%も減少していることが明らかになりました。



カシラダカの個体数指数の変動（Edenius et al. 2017を改変）

この成果は絶滅危惧種レッドリストカテゴリーの見直しにおいて大きな役割を果たしました。

個体数の世界的な急減が懸念されカシラダカはIUCN（国際自然保護連合）のレッドリストにおいて、軽度懸念（LC）から絶滅危惧Ⅱ類（VU）にカテゴリー変更されたのです。

長期間の継続調査という特性を生かし
日本や海外の標識調査のデータを国際的に活用して
鳥たちの変化を客観的に捉えることができた実例といえます。

より詳しく知りたい方は、以下の論文をご覧ください。

Edenius, L., Choi, C. Y., Heim, W., Jaakkonen, T., De Jong, A., Ozaki, K., & Roberge, J. M. (2017) The next common and widespread bunting to go? Global population decline in the Rustic Bunting *Emberiza rustica*. Bird Conservation International 27(1): 35-44.